

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

R3年度標準スコア(国語54.0、算数55.8、社会57.2、理科56.6)より各教科1ポイントアップを目指す。

## 3. 指標にむけての取組

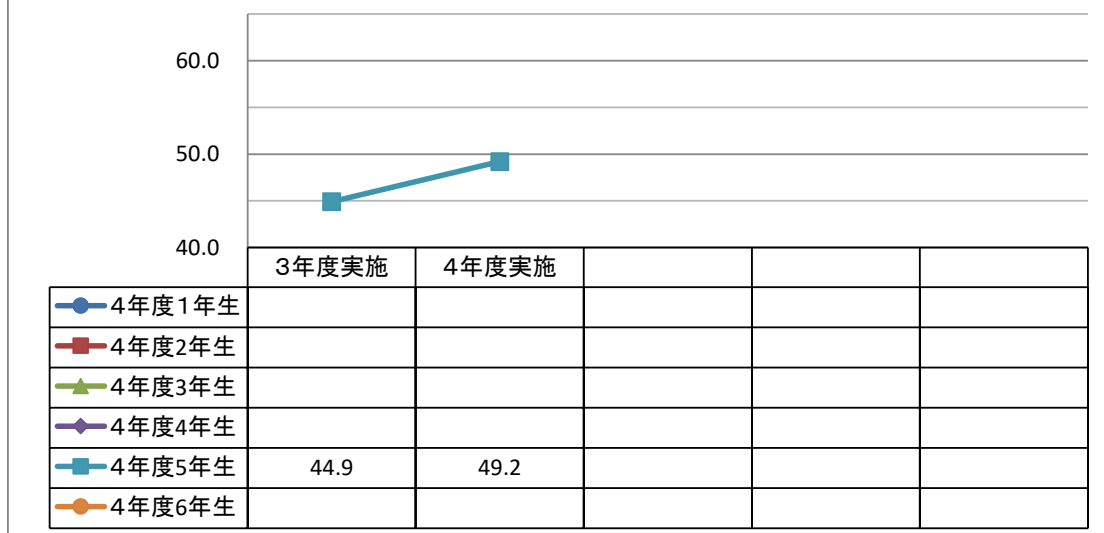
- 熊小授業の進め方の徹底(めあて・見通し・一人学び・友達学び・振り返り・次時確認)  
・毎時主眼達成度を個別に見取り、「未定着0」を目指し、苦手部分を指導
- 主題研修の日常化(シラバス、ワークシート、ガイドを活用した「読み、考え、書く」力の育成)
- 補充学習(朝活・昼チャレンジ・補充タイム)の全員体制での計画的実施
- 家庭学習の確実な見取りとやり直しの徹底 ○学力層C・D層への個別支援

## 4. 調査結果

※学校の標準スコア平均(国語・算数)の2年間の推移 (標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度			
本校(A)	54.9	57.0			
嘉麻市(B)	47.0	47.2			
(A) - (B)	7.9	9.8	0.0	0.0	0.0
全国値との差 (A) - (50)	4.9	7.0	-50.0	-50.0	-50.0

### 各学年の標準スコアの推移



※嘉麻市立小中学校全国学力・学習状況調査等の結果に関する規定第6条2項の規定に基づき、小学5年生以外の結果については公表は行いません。

## 5. 各学校における分析

- ・学校全体の結果は、国語56.7、算数57.3、社会56.4、理科50.7となった。国算は、共に全国平均を上回り、本校の短期指標を達成することができた。理社は、昨年度より下がったが、全国平均は上回ることができた。
- ・同一集団で見ると、ほとんどの学年・児童が、国算共に昨年度より向上することができた。日常の取組の積み重ねが定着につながっていると考えられる。下がった児童については、学習意欲を高めることが課題である。
- ・難しい問題にも粘り強く取り組み、できる限り答えようとする姿勢がみられた。一方、時間が足りなかった児童もおり、長い文章や複数の資料の読解に慣れる必要がある。
- ・学年によって大きな差があり、基礎基本の定着が課題の学年もある。少しずつ伸びてきているので、日頃の授業、宿題、補充で、個に応じた支援の継続が必要である。

### 【国語】

○「読むこと」の領域が比較的よくできた。主題研修の取組や毎日の読解指導により向上していると思われるが、継続して読解力を育てる必要がある。

●「話すこと聞くこと」「言語事項」が苦手な児童が多く、具体的な指導が必要である。

### 【算数】

○「数と計算」領域がよくできている。毎日の音読計算が効果的であると考えられる。

●「図形」領域が苦手な児童が多い。授業の工夫や復習に力を入れる必要がある。

## 6. 各学校における今後の取組

- ・当該学年の学習内容を確実に定着させる。(授業、毎日の宿題、補充)
- ・欠席した児童にも確実にその内容を指導する。
- ・読解力を育成する。  
シラバス・ノートを活用した読み取って書く授業づくり、文章問題や資料から読み取る学習に力を入れる。
- ・「書く活動」を重視する。  
理由や方法を用語や式などを用いて文章で説明する学習を多く取り入れ具体的に指導する。
- ・音読や読書に取り組ませ、文章を読み慣れ、語彙力をつける。言語事項については宿題で繰り返し取り組む。
- ・復習、活用問題に取り組む時間を確保し、定着するまで繰り返し行う。
- ・学力層C・D層の児童へは、習熟時に複数体制で個別に指導したり、放課後宿題の支援をしたりする。がんばりや伸びを知らせ、賞賛することで、意欲を高めることができるようにする。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。